

# 磐城時報

編輯人 田中弘成  
印刷所 磐城時報印刷部  
發行所 磐城時報社  
電話 一四七五  
郵政掛號 第三三三號  
代價 一月一元二角 三月三元五角 半年六元 一年十二元  
廣告料 一行一文字 一日一角五分 一月一元 三月二元五角 半年四元五角 一年八元五角  
印刷 每日（日曜、祭日）休刊

## 殉職消防組員慰靈祭

### 縣下消防組頭大會

#### けふ平町に開催 参集者一千余名

第十四回縣下消防組頭大會は十五日午前九時半平町第三小學校講堂に開催されたが、之より先午前八時半から警察署於て縣下殉職消防組員福島市清明町福島組野口庄太郎（慶應元年生明治二十三年殉職）外十六名の慰靈祭を執行、縣下消防組頭小柳知事、協會長歌川警察部長、遺族、來賓、警察署長、組頭、各惣代臨席、修禊招魂の行事慰靈祭祝詞あり、次いで總裁小柳知事の祭文朗讀あり、一同玉串を捧げて閉式し、直ちに組頭大會に移り小柳知事の訓示後歌川警察部長が挨拶をなして議長席に就き、既報の如き指示、注意協議、諮問事項の説明あり、晝食後無火災消ば組並に優良組員を表彰して次いで建議事項の討議あり、來賓總代の祝辭について受賞者總代の答辭あり午後三時閉會した、閉會後聚樂館に於て園遊會を開き散會した、大會の表彰組並に組員左の如し

▲優良組員褒賞 庭塚遠藤利三郎、大笹生吾妻喜平、掛田三郎、大野吉太郎、上川崎喜吉、福田安部吉太郎、上川崎喜吉、林、下川崎清谷清二、本宮小松長之助、三和橋本一良、川重、伊南馬場長一郎、旭田川伊右衛門、日橋渡邊半左衛門、慶徳佐藤元記、喜多方風間春夫、駒形物江重明、月形佐藤太衛、新千二瓶主税、近津石

## 優良組員を表彰

### 警察部長 臨席し 十六日平町で舉行

警察署管内二十二ヶ町村聯合消防組は十六日午前九時から平町八幡小路グラウンドに於て警察部長臨席の上舉行する、管で當日は檢閲に先立ち、優良消防組として平組外四組に金馬廉を授與し、更に左の優良組員を表彰する。

▲無火災表彰 本郷九ヶ年、東尾岐十三ヶ年、藤田九ヶ年、針道七ヶ年、笹谷十ヶ年、伊北十ヶ年、白坂十二ヶ年、早稲谷二十ヶ年、谷田川十五ヶ年、湯本二十ヶ年、磐城三ヶ年

▲優良組員表彰 庭塚遠藤利三郎、大笹生吾妻喜平、掛田三郎、大野吉太郎、上川崎喜吉、福田安部吉太郎、上川崎喜吉、林、下川崎清谷清二、本宮小松長之助、三和橋本一良、川重、伊南馬場長一郎、旭田川伊右衛門、日橋渡邊半左衛門、慶徳佐藤元記、喜多方風間春夫、駒形物江重明、月形佐藤太衛、新千二瓶主税、近津石

## 大工町踏切問題 衆議院に請願

### 臨時議會を機として 改築實現の運動

平町大工町の踏切改修運動は一すことになった。大工町の踏切切中止の形となつてゐるが、臨は最近踏線橋の架け替をなした時議會が召集されるのを好機とが依然不便なので地下道か踏線し平町は再び改修實現の運動を路にするやう改修實現運動を再なすことになり、近く平町長のひ開始することになったが、關名義で鐵道大臣に陳情書を提出係各方面でも平町當局に呼應し、同時に衆議院に請願書を出て運動をなす等。

## 新醫學を得て 藤本博士歸る

石城郡平町新川町木村醫院勤務 外科醫學博士藤本順氏は、去る四月一日より五日間大阪市に於て開かれた第八回國際的大日本醫學會總會に出席昨十四日歸平し、新醫學を輸入し直ちに同病院に勤務した、尙同氏は来る二十日平町に開催される縣下醫學會總會にも講師として出席の筈である。

## 平町日用品物價

▲白米一キロ（一等）二十錢同（二等）十九錢五厘同（三等）十九錢、白米一キロ十六錢、平麥同二十錢、味噌（並）一貫匁七十錢、醬油（並）一升六十錢、清酒（並）一升一圓、木炭（檜丸）一貫匁二十九錢同（檜割）二十二錢同（雜木）二十四錢、砂糖（白）百匁十四錢同（赤）十三錢、豚肉（上）四十錢同（並）三十錢、牛肉（上）五十錢同（並）三十錢、白米百キロ十八圓五十錢。

## 値下げ問題で 牛乳組合紛擾

### 組合を解散せよと叫ぶ

▲小名濱小頭松原正美、御代喜作、伍長馬山龜司、小野三郎、小野孫之助、計七名、米澤寛、小野孫之助、計七名、江名伍長金成茂男、酒井直惠、高木武夫、佐藤菊吉、吉田平政、高木忠次郎、吉田幸計十一名、鹿島小頭三島五郎、伍長鈴木武、消防手江尻宣、鈴木茂、高橋富雄、計五名、▲豊岡伍長高橋道之助、四家富岡、中山岩藏、大和田西松、鈴木與市、消防手鈴木勝彌、計六名、▲高久伍長箱崎謙壽、消防手箱崎善吉、矢吹章、佐藤定平、鈴木庄三、鈴木庄三、計六名、▲飯野伍長河部信彌、消防手塩濱瑛、若松廣、丹野太五、木伊與、計七名、▲夏井消防手酒井米次、大和田隆、新妻、市井作、小田治、新妻、渡邊五郎、左衛門、濱邊、計七名、▲神谷小頭木村新平、消防手神原多博、會川利、志賀安好、佐藤三郎、片寄為義、計八名、▲平窪小頭立澤和義、松本清、▲松本五郎、鈴木正金、消防手川角清、吉田信也、計八名、▲吉野市太郎、消防手鈴木忠、計五名、▲吉野市太郎、消防手鈴木忠、計五名

▲牛乳採取組合では近く幹部會を開いてこれに對策を講ずることになった、一合八錢を七錢に値下げした事は當時各新聞にも報導され一般需要家としても時勢に鑑みた當然の値下げと解釋してゐるので、たゞ組合が値下げせざるを得ぬこととなるの

## 健康相談

簡易保險局が被保險者の爲に健康相談所を設立して、一切無料で健康相談や巡回看護を取扱つて居る、其の事業の内容を十分に理解しない者が多いやうに思はれる、簡易保險局は逕信省が大正五年に實施してから非常な發展をして現在では契約者數が千四百萬の大家族となり保險金額は十九億圓に達してゐる、其處でも國家が民衆、殊に大多數の中産階級以下の相互救済を計らうと云ふのが事業の使命なのだから、ただ保險金を支拂ふと云ふばかりでなく被保險者の健康状態を改善して本當の生活の幸福を御互が保つようにと云ふので所謂被保險者の福祉増進施設を行つてゐるのだが、簡易保險健康相談所は、つまり此の施設の一つである、我々は人生の幸福を味ふ爲めに健康長壽が、どれ程望ましいものであるかはよく知つてゐる、痛感して居る筈だ、だがさだけの注意と努力を拂つてゐるであらうか、茲に火事であつたらうか、若しそれが小火であつたらうか、一定の度を越えれば火災は仲々容易な事では無い、病氣も亦然りだ、最初うちに撲滅さへすれば根絶する事も出来やうが、重症になると治療に妙からぬ困難を感じる、近來醫學會では治療醫學に對立して豫ば學の重要性が認められ、學者のこれに力を注ぐ様になつたのは偶然でない、この豫ば學の立場から見て、最も重要な事は健康診断である、我々は病氣にかつて居てもそれが輕症である時とか、慢性疾患の場合には格別の苦痛が無いので、往々氣が付かない場合が多い、又体質遺傳等から起る病氣も對して豫め注意して置く必要もある。

